

山地一禎先生

国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター 教授
「組織が備えるべき研究データ管理とは」

（調整中）

田中久美子先生

広島大学 学術・社会連携室 未来共創科学研究本部 研究戦略推進部門 URA（認定 URA）
「大学における研究データ管理の実践 1」

博士（理学）取得後、国立研究所および企業での勤務を経て、複数の国立大学において約 13 年間、URA として研究支援に携わってきた。医学系研究を中心に、研究シーズを育成し出口まで支援することで、大学全体の研究力向上にもつなげることを一貫したコンセプトとして活動している。その中で、研究環境整備、シーズ・ニーズの発掘、研究拠点の立上げ、外部資金獲得支援、プロジェクトマネジメント、自治体・産業界との連携支援など、研究戦略の立案から実装まで研究のライフサイクル全般をカバーする幅広い支援を実施してきた。これらの経験を活かし、現在は J-PEAKS 事業および AMED 医学系研究支援プログラム（広島大学・神戸大学・熊本大学連携プロジェクト：HK2-MIRAI）においてプロジェクトマネジメントを担当。機関間連携の推進や、研究力向上の基盤となる研究環境整備の一環として、研究データマネジメントの実施支援にも携わっている。

小清水久嗣先生

藤田医科大学 研究推進本部 URA 室 教授 (URA 室長)

「大学における研究データ管理の実践2」

1997年大阪大学理学部卒業。2002年同大学大学院理学研究科修了、博士（理学）。専門は神経科学。産業技術総合研究所、米国国立衛生研究所（NIH）を経て、2011年に藤田保健衛生大学（現・藤田医科大学）総合医科学研究所に着任。2018年より全学の研究推進を主たるミッションとして活動している。2022年に同大学教授、2023年からは新設された URA 室の室長を務める。URA 室では、研究戦略推進、プレ・アワード、ポスト・アワード、各種関連専門業務を大きな柱として、基礎研究力の強化を目指した取り組みを展開している。研究データポリシー策定をはじめとするオープンサイエンス推進においては、URA 室を中心に 2024 年に「オープンアクセス・オープンサイエンス推進委員会（OA/OS 委員会）」を立ち上げ、委員長として学内の関係部局や学外組織などと連携しながらその推進にあたっている。

谷藤幹子先生

国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター センター長

「研究データ管理を支える学術情報基盤の紹介」

2025年4月就任。国立情報学研究所（NII）が提供する学術研究データ基盤「NII Research Data Cloud（NII RDC）」において、データ管理（GakuNin RDM）、公開（JAIRO Cloud）、および教育（GakuNin LMS）の各基盤開発・推進に従事する。

前職の物質・材料研究機構（NIMS）では、材料データプラットフォーム「DICE」を統括。データの「創出・収集・利活用」を一気通貫で行う先進的な研究データ管理（RDM）基盤を構築した。実験装置からの IoT データ収集、構造化ツール（M-DaC）、語彙統制（MatVoc）の開発を主導し、機械学習に資する FAIR 原則に基づいたデータエコシステムを確立。

専門はデータプラットフォーム、デジタルパブリッシング、FAIR デジタルオブジェクト。

現在はオープン・クローズド双方のデータ活用基盤の研究開発に取り組み、内閣府・文科省の委員や Research Data Alliance（RDA）、COAR の理事等を歴任。政策と国際標準の両面からオープンサイエンスを牽引している。